

報告第9号

株式会社どまんなかたぬまの経営状況を説明する書類の提出について
株式会社どまんなかたぬまの経営状況を説明する書類について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり提出します。

令和8年9月4日提出

佐野市長 金子 裕

理 由

株式会社どまんなかたぬまから、別紙のとおり経営状況を説明する書類が提出されたので報告するものです。

参 考

地方自治法抜粋

（財政状況の公表等）

第243条の3 …省 略…

2 普通地方公共団体の長は、第221条第3項の法人について、毎事業年
（株式会社どまんなかたぬま）

度、政令で定めるその経営状況を説明する書類を作成し、これを次の議会に提出しなければならない。

3 …省 略…

地方自治法施行令抜粋

（法人の経営状況等を説明する書類）

第173条の5 地方自治法第243条の3第2項に規定する政令で定める
その経営状況を説明する書類は、当該法人の毎事業年度の事業の計画及び
決算に関する書類とする。

2 …省 略…

令和8年度

(株) どまんなかたぬま
事業計画書及び収支予算書

自 令和8年4月 1日

至 令和9年3月31日

【株式会社どまんなかたぬま】

令和8年度 株式会社どまんなかたぬま事業計画書

令和8年度の日本経済は、所得環境の改善や政策効果の浸透により、個人消費や設備投資の持ち直しが期待されています。国内需要を中心とした回復が続く見通しであり、安定した経済運営が求められる一年となる見込みです。

一方、世界経済は、各国の政策対応や投資活動の継続により緩やかな成長が見込まれるものの、国際情勢の不安定さや金融市場の変動など、外部環境には引き続き不確実性が残ると見られています。

このような状況において、「これまでにない」をコンセプトに、更に高付加価値、高粗利の商品構成を強化。独自性や特長のある商品、サービスの提供を引き続き追求して参ります。

自社商品の開発及び販売。他店舗、他企業とのコラボレーションで付加価値の高い商品、メニューの開発及び販売を行います。

取引先、生産者の新規開拓を進め、品質の良い、他店では真似のできない品揃えを目指します。

原材料の見直しの他、知恵と工夫を凝らし、利益率の改善を行い、更なるキャッシュフロー経営に向けて取り組みます。

従業員のスキルアップ及びお客様とのコミュニケーションの質の向上に向けて従業員教育に注力して参ります。

施設面において、老朽化の改善を随時行うとともに、時代の変化に対応した店づくりを行います。

自立した組織を目指し、リーダークラスの従業員による社内プロジェクトにおいて、様々な問

題解決のセルフマネジメントを実施して参ります。

経営品質向上プログラムを活用し、更なる顧客価値経営を実行する為に外部講師を迎え、経営品質の考えを従業員に周知・理解させ実践に結びつける活動を行います。

年6回、折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体とSNSでの情報発信を強化。店内では、デジタルサイネージを活用し、生産者、取引先をクローズアップした新たなオリジナルコンテンツを配信し、アナログとデジタルの両面で、新規顧客の獲得及び誘客を積極的に実施致して参ります。

イベント企画として、これからも「体験」「遊び」をモチーフに様々なジャンルの企画を取り入れ開催いたします。

人材確保やモチベーション向上を目的とし、従業員に対しては、賃上げを実施。従業員は一律3%アップを設定します。

このような取り組みを行い、「顧客満足・従業員満足・独自性・社会貢献」の4つの視点で、積極的な営業展開を図り、更なる顧客確保、収益向上、安定経営に向けて取組む所存でございます。

そして名実ともに「ワクワクする道の駅」に向けて、従業員一丸となって邁進して参ります。

何卒、株主の皆様におかれましても倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年度 株式会社 どまんなか たぬま 営業収支予算書

(単位 千円、%)

				2026年度予算	2025年度実績値	前年比	前年増減
経常損益	営業損益	営業収益	売上高	1,851,000	1,797,729	103.0%	53,271
			売上原価	1,270,000	1,249,688	101.6%	20,312
			売上利益	581,000	548,041	106.0%	32,959
			計	581,000	548,041	106.0%	32,959
		営業費用	人件費	300,000	287,053	104.5%	12,947
			消耗品費	11,000	11,176	98.4%	▲ 176
			地代家賃	1,700	1,432	118.7%	268
			保険料	7,800	7,519	103.7%	281
			保守修繕費	8,000	6,113	130.9%	1,887
			リース料	22,000	20,244	108.7%	1,756
			租税公課	5,000	4,804	104.1%	196
			減価償却費	37,000	31,095	119.0%	5,905
			旅費交通費	9,000	8,554	105.2%	446
			通信費	2,000	1,946	102.8%	54
			水道光熱費	56,000	55,913	100.2%	87
			支払手数料	24,000	22,394	107.2%	1,606
			どまんなかカードボーナス	3,500	3,085	113.5%	415
			広告宣伝費	16,000	19,727	81.1%	▲ 3,727
			接待交際費	1,500	1,362	110.1%	138
			清掃費	13,600	13,576	100.2%	24
			雑費	51,800	48,809	106.1%	2,991
			計	569,900	544,802	104.6%	25,098
		営業損益			11,100	3,239	342.7%
	営業外損益	収益	雑収入	12,500	10,188	122.7%	2,312
			太陽光売電収入	44,000	45,222	97.3%	▲ 1,222
			計	56,500	55,410	102.0%	1,090
		費用	雑支出	30,000	30,197	99.3%	▲ 197
			計	30,000	30,197	99.3%	▲ 197
	営業外損益			26,500	25,213	105.1%	1,287
経常損益				37,600	28,452	132.2%	9,148

第 2 3 期

事 業 報 告 書

(令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 3 1 日まで)

株式会社 どまんなか たぬま

栃木県佐野市吉水町 3 6 6 - 2

事業報告書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

令和7年度の日本経済は、賃上げの広がりを背景に緩やかな回復基調を示しましたが、物価上昇の影響から個人消費には力強さを欠く面も見られました。政府は物価高対策や成長分野への投資支援を進め、景気の下支えに取り組んだ一年となりました。

一方、世界経済は、地政学リスクや通商政策の不透明感が続く中でも、AI関連投資を中心に緩やかな成長を維持しました。ただし、物価や金融市場の変動など、先行きに対する不確実性は依然として残りました。

このような状況において、「これまでにない道の駅」を目指して、高付加価値、高粗利の商品構成の強化。独自性や特長のある商品、サービスの提供を行いました。

営業部門では、新規の取引先及び生産者の開拓を行い、直接取引きすることで、付加価値の高い商品を適正価格で販売を行いました。

催事販売に力をいれ、東北4県のアンテナショップとの定期的な催事販売の他、パンまつり、九州フェア、北海道フェアはどまんなかホールを使用し、規模を拡大して開催し、全体的な集客、売上に貢献しました。

飲食部門では、昨年度末に閉店した店舗を改装し、山形県鶴岡市にあるイタリアンレストラン「アル・ケッチャーノ」の奥田政行オーナーシェフに監修していただき、奥田シェフの料理哲学をベースに、地元食材をふんだんに使ったカジュアルなスタイルで料理を提供する道のイタリアン「タヌマンマ」を11月にオープンさせました。

製造小売部門では、原材料と価格の見直しを実施し、美味しさを保ちながら、工夫を凝らした弁当、総菜を提供しました。また、オリジナル商品の開発と安定した製造、提供を行うために菓子製造加工専用のトレーラーハウスを設置しました。

施設面において、「さのまる」のフォトスポット、「いもフライ」のオブジェに続く第3のモニュメント”幸せを呼ぶ「どまんなかの鐘」を設置。鐘は伝統工芸「天明鋳物」で作製しました。

広報活動において、年6回折込チラシを発行。特にSNSの発信を強化し、専門家による指導や新しいコンテンツの導入で安定したフォロワー数の増加、及びメディアへのアプローチも成功し、TV番組の取材のオファーを多く受けました。店内各所に大型デジタルサイネージを設置するなど新規顧客の獲得及び誘客をデジタルとアナログの両面で積極的に実施しました。

イベントでは、野菜の詰め放題や旬の果物の即売会などの他、GWは潮干狩り体験や子供向けミニゲーム、夏休みは恒例の「怪談 お化け屋敷」、デジタルスタンプラリー、冬はガーデンイルミネーションなど「体験」「遊び」をモチーフに開催しました。

人材確保やモチベーション向上を目的とし、従業員に対しては、一律3%の賃上げを実施。

このような施策を鋭意努力して行って参りまして、令和7年度の営業成績は、総売上高1,797,729千円（前年比102.3%）前年に対して40,660千円のプラス。

営業利益は3,239千円（前年比72.7%）前年に対して1,216千円マイナス、

経常利益28,452千円（前年比36.1%）前年に対して16,570千円マイナス。

売上額は伸びて、過去最高売上額を更新しましたが、コスト増などの影響で営業利益・経常利益は前年を下回る結果となりました。



(2) 会社が対処すべき課題

令和8年度の日本経済は、所得環境の改善や政策効果の浸透により、個人消費や設備投資の持ち直しが期待されています。国内需要を中心とした回復が続く見通しであり、安定した経済運営が求められる一年となる見込みです。

一方、世界経済は、各国の政策対応や投資活動の継続により緩やかな成長が見込まれるものの、国際情勢の不安定さや金融市場の変動など、外部環境には引き続き不確実性が残ると見られています。

このような状況において、「これまでにない」をコンセプトに、更に高付加価値、高粗利の商品構成を強化。独自性や特長のある商品、サービスの提供を引き続き追求して参ります。

自社商品の開発及び販売。他店舗、他企業とのコラボレーションで付加価値の高い商品、メニューの開発及び販売を行います。

取引先、生産者の新規開拓を進め、品質の良い、他店では真似のできない品揃えを目指します。

原材料の見直しの他、知恵と工夫を凝らし、利益率の改善を行い、更なるキャッシュフロー経営に向けて取組みます。

従業員のスキルアップ及びお客様とのコミュニケーションの質の向上に向けて従業員教育に注力して参ります。

施設面において、老朽化の改善を随時行うとともに、時代の変化に対応した店づくりを行います。

自立した組織を目指し、リーダークラスの従業員による社内プロジェクトにおいて、様々な問題解決のセルフマネジメントを実施して参ります。

経営品質向上プログラムを活用し、更なる顧客価値経営を実行する為に外部講師を迎え、経営品質の考えを従業員に周知・理解させ実践に結びつける活動を行います。

年6回、折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体とSNSでの情報発信を強化。店内では、デジタルサイネージを活用し、生産者、取引先をクローズアップした新たなオリジナルコンテンツを配信し、アナログとデジタルの両面で、新規顧客の獲得及び誘客を積極的に実施致して参ります。

イベント企画として、これからも「体験」「遊び」をモチーフに様々なジャンルの企画を取り入れ開催いたします。

人材確保やモチベーション向上を目的とし、従業員に対しては、賃上げを実施。従業員は一律3%アップを設定します。

このような取り組みを行い、「顧客満足・従業員満足・独自性・社会貢献」の4つの視点で、積極的な営業展開を図り、更なる顧客確保、収益向上、安定経営に向けて取組む所存でございます。

そして名実ともに「ワクワクする道の駅」に向けて、従業員一丸となって邁進して参ります。

何卒、株主の皆様におかれましても倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2.会社の概況（令和8年3月31日現在）

(1) 主要な事業内容

当社は主として次の事業を営んでおります

- ① 道の駅施設の管理運営
- ② 小売業並びに飲食業

(2) 株式の状況

- ① 株式の総数 2,256 株
発行済株式数 614 株
- ② 株主数 7 名
- ③ 株主

(3)

株 主 名	当社への 出資状況		当社の大株主 への出資状況	
	所持 株式数	持株 比率	所持 株式数	持株 比率
佐野市	500 株	81.4%	—	—
佐野農業協同組合	40 株	6.5%	—	—
佐野市あそ商工会	20 株	3.3%	—	—
佐野信用金庫	20 株	3.3%	—	—
株式会社足利銀行	20 株	3.3%	—	—
株式会社群馬銀行	10 株	1.6%	—	—
みかも森林組合	4 株	0.6%	—	—

【処分株式】

記載すべき事項はありません。

【保有株式】

普通株式 株式会社足利銀行 10,000 株
保有価格の総額 4,200 千円



(4) 主要な借入先

(令和8年3月31日現在)

借入先	借入額 (千円)	借入残高 (千円)	借入先が有する当社の株式の数及び議決権比率	
足利銀行 田沼支店	710,000	293,930	20 株	3.3%
足利銀行 田沼支店 社債	50,000	10,000		
佐野信用金庫 田沼支店	40,000	32,992	20 株	3.3%
みずほ銀行 足利支店	50,000	7,300	0 株	0%
日本政策金融公庫	100,000	47,560	0 株	0%
栃木銀行 佐野支店	20,000	17,972	0 株	0%

(5) 企業結合の状況

記載すべき事項はありません。

(6) 従業員の状況

(令和8年3月31日現在)

	正社員	嘱託	パートナー	アルバイト	派遣	合計
男子	10	4	4	4	0	22
女子	13	3	52	15	0	83
計	23	7	56	19	0	105
内、外国人	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)

※パート従業員の事を弊社では「パートナー」と読んでいます。

(7) 事業所

本店：栃木県佐野市

小山店：栃木県小山市（イオンモール小山店専門店街1階）

(8) 取締役及び監査役

(令和8年3月31日現在)

地 位	氏 名	担当又は主な職業
代表取締役社長	篠原 敏秀	株式会社 どまんなか たぬま
取締役	大関 輝雄	佐野あそ商工会
取締役	前原 保夫	佐野農業協同組合
取締役	山越 智行	みかも森林組合
取締役	塩野目 裕	佐野市
監査役	石原 一行	司法書士

貸 借 対 照 表

(令和8年3月31日現在)

株式会社どまんなかたぬま

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	【 259,726,794】	【流 動 負 債】	【 154,971,358】
現 金	21,871,568	買 掛 金	72,946,468
小 口 現 金	190,724	未 払 金	43,822,166
普 通 預 金	147,232,187	未 払 費 用	2,899,929
売 掛 金	49,331,178	どまんなかカード	10,205,903
未 収 入 金	4,044,369	仮 受 金	317,100
商 品	10,237,127	未 払 消 費 税	5,921,900
原 材 料	13,109,090	預 り 金	4,068,392
貯 蔵 品	8,936,244	未 払 法 人 税 等	389,500
前 払 費 用	29,180	賞 与 引 当 金	14,400,000
立 替 金	4,745,107	【固 定 負 債】	【 409,754,000】
仮 払 金	20	長 期 借 入 金	399,754,000
【固 定 資 産】	【 651,708,792】	社 債	10,000,000
(有形固定資産)	(577,057,878)	負債の部合計	564,725,358
建 物	182,978,577		
建物付属設備	45,361,037		
構 築 物	164,892,618		
機 械 装 置	133,993,255		
車両運搬具	10,093,379	純 資 産 の 部	
工具器具備品	26,127,630	【株 主 資 本】	【 351,081,766】
一括償却資産	1,657,724	[資 本 金]	[30,700,000]
土 地	11,953,658	[剰 余 金]	[320,381,766]
(無形固定資産)	(6,781,906)	利 益 準 備 金	5,165,500
その他無形固定資産	6,781,906	(その他利益剰余金)	(315,216,266)
(投資その他の資産)	(67,869,008)	別 途 積 立 金	10,000,000
投資有価証券	4,200,000	繰越利益剰余金	305,216,266
出 資 金	50,000		
長期前払費用	56,595,781		
保 険 積 立 金	114,227		
保 証 金	6,909,000		
【繰 延 資 産】	【 4,371,538】	純資産の部合計	351,081,766
繰 延 資 産	4,371,538		
資産の部合計	915,807,124	負債・純資産の部合計	915,807,124

損 益 計 算 書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

株式会社どまんなかたぬま

(単位：円)

【 売 上 高 】		
売上高（朝採り館）	482,723,452	
売上高（彩り館）	762,353,460	
売上高（タヌマンマ）	36,815,513	
売上高（はなみずき）	116,078,799	
売上高（ジェラート）	39,706,692	
販 売 手 数 料	7,433,889	
施設使用料収入	48,710	
売上高（その他）	1,188,156	
売上高（うまい食パン）	92,607,174	
売上高（どまんなかマルシェ）	159,292,262	
富次郎	49,210,613	
木村屋だんご	15,138,456	
丸山娛樂園	9,662,001	
売上高（どまんなかカフェ）	25,469,995	1,797,729,172
【 売 上 原 価 】		
期首商品棚卸高	10,210,216	
仕 入 高	1,104,370,759	
当期製品製造原価	145,343,966	
期末商品棚卸高	10,237,127	1,249,687,814
売上総利益		548,041,358
【販売費及び一般管理費】		544,801,964
営業利益		3,239,394
【 営 業 外 収 益 】		
受 取 利 息	282,886	
受 取 配 当 金	211,000	
雑 収 入	54,915,678	55,409,564
【 営 業 外 費 用 】		
支払利息割引料	3,541,269	
現金過不足	843,765	
雑 損 失	123,590	
減 価 償 却 費	24,859,737	
太陽光保守修繕費	829,000	30,197,361
経 常 利 益		28,451,597
【特 別 損 失】		
決 算 賞 与	3,990,425	
退 職 金	2,336,885	6,327,310
税引前当期純利益		22,124,287
法 人 税 等		389,500
当 期 純 利 益		21,734,787



株主資本等変動計算書

自 令和 7 年 4 月 1 日 至 令和 8 年 3 月 31 日

株式会社 どまんなか たぬま

(単位：円)

	株 主 資 本						純資産合計
	資本金	利益剰余金				株主資本合計	
		利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
			別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	30,700,000	5,012,000	10,000,000	285,169,979	300,181,979	330,881,979	330,881,979
当期変動額							
当期純利益				21,734,787	21,734,787	21,734,787	21,734,787
剰余金の配当				△1,535,000	△1,535,000	△1,535,000	△1,535,000
剰余金の配当に伴う積立て		153,500		△153,500			
当期変動額合計	0	153,500	0	20,046,287	20,199,787	20,199,787	20,199,787
当期末残高	30,700,000	5,165,500	10,000,000	305,216,266	320,381,766	351,081,766	351,081,766

個 別 注 記 表

自 令和 7 年 4 月 1 日 至 令和 8 年 3 月 31 日

株式会社どまんなかたぬま

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1)資産の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法を採用しています。

② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用しています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法（ただし、平成 10 年 4 月 1 日以降に取得した建物、平成 28 年 4 月 1 日以降に取得した建物附属設備および構築物は定額法）を採用しています。

②無形固定資産

定額法を採用しています。

(3) その他計算書類の作成のための基本となる重要事項

① リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

② 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数 614 株

(2) 当該事業年度の末日における自己株式の数 0 株

(3) 当該事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

①令和 7 年 6 月 24 日の定時株主総会において、次の通り決議されました。

配当金の総額	1,535,000 円
配当の原資	利益剰余金
一株当たりの配当額	2,500 円 00 銭
基準日	令和 7 年 3 月 31 日
効力発生日	令和 7 年 6 月 24 日

監 査 報 告

私、監査役は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの
第23期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本変動計算書、個別注記表、
事業報告および、附属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和8年5月25日

株式会社 どまんなか たぬま
監査役 石原 一行 ㊟

報 告 書

前記のとおりご報告申し上げます。

令和8年6月29日

株式会社 どまんなか たぬま
代表取締役社長 篠原 敏秀
取 締 役 前原 保夫
取 締 役 山越 智行
取 締 役 塩野目 裕
取 締 役 大関 輝雄